

 校 報 見前小だより 第9号	学校教育目標 思いやりのある子ども 進んで学ぶ子ども たくましい子ども
	令和8年3月11日(水)発行

「いきる」「かかわる」「そなえる」学びを通して

本校では、2月から「3.11を忘れない月間」として、復興教育のまとめをしています。「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値の学びを通して、『自分の命は自分で守る』『郷土を愛し、ふるさとの復興と発展を支える「人づくり」』を目指しています。

1. 日頃から大切にしていること

命を守るために「まなびフェスト」にも位置づいている「話を聞く」「素早い集合」「無言移動」を大切に教育活動を展開しています。毎回の移動教室は、避難訓練だという意識でやっています。



2. 『つなみてんでんこ』の本当の意味

『津波(災害)の際は、人のことなどはかまわずに、てんでんばらばらに、急いで速く逃げなさい。』という意味です。「人のことに構うな」というと、なんだか自分のことしか考えていないような気がします。しかし、『つなみてんでんこ』の本当の意味は、『いざという時に、何の連絡がなくても必ず避難していると確信できるくらいの信頼関係を日頃から築いておきなさい』ということでもあります。ある学年で、『おうちの方と、災害時にどう行動するか話し合っていますか』と聞いたところ、『話し合っている』と答えた割合は、10%にも達していませんでした。ぜひ、15年目の3.11を機会に話し合ってください。



3. 「おもいやり」を育むことが未来の「ふるさと」を創る

♥ 「おもいやり」を育む学校教育

本校では、子どもたちが人との関わりの中で「おもいやり」を育むため、ペップトークを教育の柱としています。互いを認め合い、助け合う心は、子どもたちの未来の社会を豊かにします。

♥ トラブルは成長の機会

子どもたちの間には、時にトラブルが起こります。暴言・暴力はどんな理由があってもやってはいけません。しかし、双方の話を聞くと、お互いの気持ちの行き違いでトラブルになることが多いです。表現方法が未熟な子どもたちが、より良い関わり方を学ぶ大切な機会と捉えています。

○学校の対応: 双方から丁寧に話を聞き、解決に努めます。

○子どもの視点: 「そんなつもりじゃなかった」「相手が先だ」「相手が悪い」など、自分の視点でしか話せないことがあります。

○大人の役割: 大人が冷静に、子どもたちの「通訳者」となり、相手の気持ちを想像できるよう導くことが大切です。



家庭でのご協力をお願い

ご家庭での関わりが、子どもたちの「おもいやり」を育みます。

- 冷静な傾聴: お子さんの話に耳を傾け、困っている気持ちを受け止めてください。ただし、その話が全てではなく、背景には様々な要因があることも理解していただきたいです。
- 学校への相談: 困りごとがあれば、相談ベースで担任までご相談ください。学校と家庭が連携し、子どもたちが「おもいやり」の心を育ていけるよう、これからも、ご理解とご協力をお願いいたします。

春間近

見前小を見守る岩手山



2月7日に盛岡市民文化ホールで行われた「盛岡市教育振興運動実践発表大会」で、見前小学校区教育振興運動の発表を行いました。

地域ぐるみで子どもたちを育てていることに、高い評価をいただきました。今後とも活動へのご協力、よろしくお願いいたします。

盛岡市教育振興運動実践発表大会

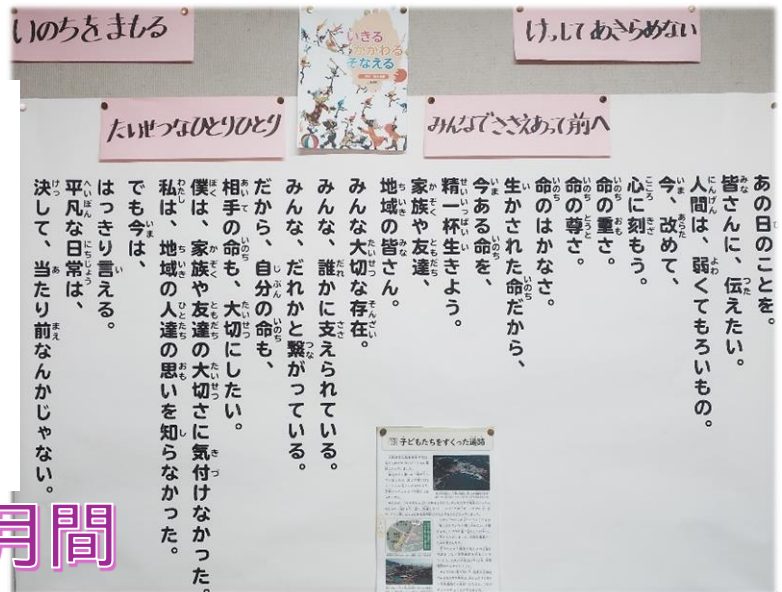


見前小学校区の応援団 →

3月11日がやってきます。
あっという間の15年でした。

未来を生きる子どもたちが、どんな困難な出来事にぶつかっても、周りの人と協力して乗り越えていく力を身に付けられるように、あの震災の記憶を伝えていかなければなりません。

学年に応じた学習を今年も進めてきました。
ご家庭でも、あの日のこと、これからのことを語り合ってみませんか。



2年生の掲示版 ↑

3.11 を忘れない月間

見前小の日々を
ブログで紹介中。



スマートフォンで
読み込んでみて
ください！

6年生の廊下には、「卒業カウンタ
ダウンカレンダー」が。一人一人の
思いが込められた素敵な作品です
が、寂しさを感じます。

1年教室の床にはワックスを。
ピカピカにして待っています！



旅立つ・迎える